

鑑賞・評価の場面に電子情報ボードを生かす

石狩市立生振小学校 教諭 山本 和彦

1. 実践授業の概要

1.1 学校名・日付・対象学年・教科・単元・時間数等

- ◆学校名：石狩市立生振小学校
- ◆授業実施日：平成16年11月29日
- ◆対象学年：小学6年
- ◆教科：図工科
- ◆単元名：「伝えたいことは何～省エネポスターの作成」
- ◆時間数：6時間

- 1時間目…省エネについての知識を整理する
テーマを設定し、作品の概略を紙に表す
- 2時間目…作品のための素材を収集する
- 3時間目…作品を製作する
- 4時間目…作品を製作する
- 5時間目…お互いの作品を鑑賞し、評価する←
- 6時間目…評価を作品の集成に生かす

1.2 実践授業の目的

文字の形や色の組み合わせなど目的に応じて効果的なものが使われているかを評価することが出来る

1.3 実践授業までの流れ

学校として取り組んでいる省エネ活動のために節電や節水、ゴミの分別を呼びかけるポスターを図工の授業で作成することにした。

まずは、作成するポスターのテーマを設定し、大まかなレイアウトを紙にあらわした。

次に、ポスターの素材とする写真をお互いにモデルになりながらデジタルカメラで撮影した。

集めた素材をもとにフォトショップエレメンツでポスターを作成した。

「青の反対色ってなんだっけ?」「ん?ハイライトすれば分かるよ。」

フォトショップエレメンツは子供たちにとって専門的なソフトである。最初はツールを探すことさえ苦労していた。しかし、友だち同士などで教え合うなどしているうちに上達。あっという間だった。

作業が進むに連れて、子供たちの会話の内容も専門的になっていった。

そして、完成した作品を相互評価する時間。本実践である。

1.4 実践授業～お互いの作品を鑑賞し、評価する

自己満足のポスターではダメだ。誰が見ても分かるように、興味のない人の目も惹きつけるように作らなければならない。多くの目で作品を見ると一人では気づかなかったことが見えてくる。そのため相互評価の場面が必要である。

しかし、今までやってきた相互評価ではそこまでの効果は得られないでいた。例えばこんな授業だ。完成した作品を持ち（もしくは黒板に貼って）、自分の作品を説明する。「一番苦労したところはどこですか。」「上手くいったところはどこですか。」子供たちからはありきたりの質問しかでなかった。相互評価というよりは感想発表会である。

そこで、相互評価の場면을活性化するために電子情報ボードを使った。やり方は簡単。作成したポスターのファイルを画像ビューワー（IrfanView）で再生し、電子情報ボードに投影する。投影された画像を制作者が説明し、他の子供たちが評価をしていく。今まで手に持たせていたものをスクリーンに映しただけである。ただそれだけの授業であったが授業は盛り上がった。フォントのデザインや文字の間違い、画像に関することから色の使い方まで。厳しいくらいの意見も出された。

「おっ、なんかひきしまった感じがする。」この授業の後に手直しを加えた子供の言葉である。相互評価の時間が機能していたことが分かる。

2. 実践でわかったこと

2.1 IT 活用の効果について

今回の授業では用意周到な準備も、子供たちを惹きつける仕掛けも使っていない。

だが、子供たちは集中し、多くの意見を述べている。電子情報ボードを使うことによって授業の何が変わったのか。次の3つのことが挙げられる。

- ① 作品へ集中するようになった
- ② 授業への積極的な参加が促された
- ③ 評価に使った画像がそのまま保存でき修正に生かすことが出来た

まず、①である。スクリーンに投影することで後ろの子供たちにも作品がよく見えるようになった。また、拡大や縮小といった機能を使うことで作品の細部についても見せることが出来た。しかも、それらが教室にいる全ての子供たちに同時になされる。作品を見るために順番待ちをするなどの空白の時間も出来ない。これらが作品への集中度を高める理由だったと考える。

次に、②である。電子情報ボードにはペンツールなどで書き込みが出来る。これが子供たちの参加意欲を高めた。普通は作品にマーカーで印をつけたり、文字を書き込んだりはできない。しかし、電子情報ボードではそれができる。説明をする者はよく見て欲しいところを○で囲んだり、矢印をつけたり。評価をする者もボードのところでペンで書き込みながら説明する。作品に対する集中度が増すことはもちろん、そういった活動は子供たち自身を授業の主役とする。書き込みが出来ることの魅力は大きい。

最後に、③である。書き込みをした画像がそのまま保存出来る。これは電子情報ボードの特性である。例えば、作品をプロジェクターでスクリーンに投影したとしても、書き込みはできない。書き込みをした画像を保存できることの良さは2つある。第一に修正の際に手元に資料としておくことができる。話し合いに集中していればメモはとれない。メモをとらせていれば話し合いが活発にならない。この問題を解決することができる。第二に、話し合いを評価する資料とできる。これは教師にとっての利点である。子供たちの話し合いを評価する際に観察の記録だけでなく、話し合いの後も参考資料とすることが出来る。

電子情報ボードを使うことで以上のような点で授業が変わった。また教師にとって何より助かったことは、これらを授業で行うときに手間がかからないということである。これが何よりも嬉しかった。



2.2 実施した授業における狙いと評価（評価の4観点に◎、○、△、無印をつける）

(1) 実践前の狙い

- ①関心・意欲・態度（○） ②思考・判断（ ） ③技能・表現（ ） ④知識・理解（ ）

(2) 実践後の評価

- ①関心・意欲・態度（◎） ②思考・判断（ ） ③技能・表現（○） ④知識・理解（○）

当初の目的は関心を高めるところであった。だが、実際に授業をしてみると隣接色や反対色、暖色や寒色といった学習用語を確認するところまで発展させることができた。また表現上の工夫やソフトの使い方というところも話題にすることができた。

2.3 課題について

電子情報ボードを使って一番注意をしたところは、プロジェクターを動かさないようにするということだ。電子情報ボードを主に教室で使った。当然プロジェクターは子供たちの机の側に置くことになる。子供たちに操作をさせているときに、プロジェクターやボードを動かしてしまうと設定をやり直すために授業を止めなければならなくなる。よって、配線と子供たちの動線を交わらないようにするというところに一番気をつかった。